

創立125周年 今も生きる建学の精神

関西学院大学 学長 村田 治さん



村田 治(むらた おさむ)
1955年東京都生まれ。関西学院大学経済学部卒業。同大学院経済学研究科博士課程単位取得、経済学博士。関西学院大学経済学部助教授を経て、1998年教授。教務部長、経済学部長、高等教育推進センター長を務め、2014年より関西学院大学長。専門分野はマクロ経済学、景気循環論。あしなが育英会副会長。

グローバル化の必要性が叫ばれている。キリスト教主義のもと、「**全人教育**」を理念に125年歩み続けてきた関西学院大学の時代が、今まさにやって来た。

ローバル社会の中でどんな問題が出て来ようとも、その価値観に基づいて物事を分析し、考えれば、「YES」か「NO」かを判断できるでしょう。

—18歳で大学に入学し、4年間で自分の価値観を持つことができるでしょうか。

村田 価値観は時間とともに変化していくものですから、学生には常に、新しいことを吸収しながら一生成長し続けなさい、と話しています。大学4年間で価値観を持つことの重要性を学び、さまざまな体験・経験を積んでほしいと思っています。関西学院大学は創立当時からキリスト教精神に基づく全人教育



中央講堂を125周年記念講堂に建て替えている

(Intellectual and religious) を謳っています。これは「科学的思考」と「世界観」の涵養と解積できます。つまり、自分の世界観、価値観を持つて科学的に物事を分析し、考える力を持った学生を育てることが我々の役割です。また、本学には「奉仕のための練達」と訳されるスクールモットー「Mastery for Service」があり、隣人・社会・世界に仕えるため、自らを鍛えることを唱えています。このような価値観がスクールモットーとして根づいている本学には、学生が個人の中に価値体系を持つための最も良い環境があると言えるでしょう。これは、これから日本がグローバル化していくなかにおいて強みであり、まさに関西学院大学の時代がやって来たと思っています。

世界の競争社会で耐えうる教育を

—Mastery for Service—
について学生たちに向けてのメッセージは。

大学4年間で
価値観の重要性を学ぶ

—4月に学長に就任されてから何か変わったことはありませんか。

村田 私自身が変わったという意識はありません。学長としての方針は、教務部長当時から考えていたもので、世界の見方も変わりません。もちろん世の中の変化に応じてビジョンを修正してきていますが、今までの延長線上でのことです。強いて言うならば、周りが私を学長として見るようになり、私も公人としての自覚を持つようになったということでしょうか。

—今の学生にもっとも必要なものは何だと思われませんか。

村田 社会のグローバル化が進む今、学生に求められているのは問題を見出し解決する能力です。この能力を培うためには自分の価値観を持つことが重要です。何が問題なのかということは、自分の中にある価値基準と照らし合わせてはじめて見つけることができるからです。グ

村田 第4代C・J・Lベーツ院長の言葉で、「奉仕のための練達」と訳されていますが、その続きには「強くあれ」とあります。本学はプロテスタントで、神の前では誰もが平等ですから、上へ向くという力が育ちにくい。自らを鍛え人類に貢献するリーダーであれという部分を強調したいと思います。

私は学生たちに、自分が持つ能力を10としたら、それを出て貢献して欲しいと話しています。自分を鍛えることが学生に与えられた使命です。グローバル化により競争社会である世界へ出ていかななくてはなりませんから、それに耐えうる教育が必要です。ただし大学内では機会の均等は保証する制度設計が必要です。その下で学生が競争した結果、能力差や多様性が生まれるのだと思います。

—近年は女子学生が元氣だと言われていますか。

村田 ゼミで学生を見ていると、基本的に女子学生のほうが勤勉ですね。グループをまとめ